

地球惑星科学委員会 地球惑星科学国際連携分科会（第26期・第11回）
議事要旨

1 日 時 令和7年12月27日(土) 9:00~11:15

2 会 場 オンライン会議 (Zoom)

3 出 席

委員：矢野 桂司、沖 大幹、小口 高、倉本 圭、三枝 信子、佐竹 健治、中村 卓司、
西 弘嗣、堀 利栄、藪田 ひかる、伊藤 香織、大谷 栄治、掛川 武、春日 文子、
齋藤 文紀、塩川 和夫、鈴木 康弘、張 勁、土屋 旬、村山 泰啓、榎本 浩之（敬
称略）

欠席：藤本 正樹

オブザーバ：春山 成子

4 議 題

- (1) 前回議事要旨の確認
- (2) 各分科会・小委員会の活動状況
- (3) 学術フォーラム（7月12日開催）のフォローアップについて
- (4) その他

5 配布資料

資料1 地球惑星科学地球惑星国際連携分科会（第26期・第9回）議事要旨

資料2-1 国際北極科学委員会（IASC）小委員会活動報告

資料2-2 IMA 小委員会（第26期・第4回及び第5回）議事要旨

資料2-3 INQUA 小委員会（第26期・第3回）議事要旨

資料2-4 SCAR 小委員会活動報告

資料2-5 SCOSTEP-STPP 小委員会（第26期・第4回及び第5回）議事要旨

資料2-6 IUGS 分科会資料

資料2-7 IUGG 分科会（第26期・第3回）議事要旨

資料2-8 IGU 分科会報告

資料2-9 FE・WCRP 合同分科会報告（1129 学術フォーラム）

資料2-10 ICA 小委員会報告

資料2-11 WDS 小委員会報告

資料2-12 SCOR 分科会報告

資料2-13 COSPAR 小委員会（第26期・第2回）議事要旨

資料3 学術フォーラム「急激に変わりゆく地球環境と国際情勢：地球惑星科学の国際
連携・国際協調」（7月12日開催）のフォローアップ

資料4-1 日本学術会議公開シンポジウム「地球温暖化は南極をどのように変えるか？-
日豪共同研究の新展開-」の報告

資料4-2 地球惑星科学国際連携分科会 IASC 小委員会の委員追加について

6 議事内容

(1) 前回議事要旨の確認

委員長より、資料1に基づき第9回議事要旨の確認を行った。

(2) 各分科会・小委員会の活動状況

資料2-1~12に基づき、各委員会から活動状況が報告された。

IASC 小委員会(榎本)からは、5回の会議を開催し、そのうち2回は SCAR 小委員会と合同で開催したこと、第5回国際極年(IPY-5)に向けた準備状況、ASSW 開催状況(2027年函館開催は日本学術会議と共同開催の方向)などが報告された。

IMA 小委員会(土屋)からは、Geoheritage への申請状況、2026年に南京で開催予定の総会(IMA2026)の準備状況、新鉱物承認手続きの見直し、委員の就任(鉱物物理学コミッション)などについて報告があった。

INQUA 小委員会(齋藤)からは、2027年にインドで開催予定の大会(INQUA2027)への代表派遣や準備状況、アジアにおける第四紀研究の国際集会 ASQUA の日本開催の検討、2026年に20周年を迎える EEYW の記念大会に対し出版物も含めて日本が積極的に関わる旨の報告などがあった。

SCAR 小委員会(中村)からは、2025年7月に開催された公開シンポジウムや、2026年にオスロで開催予定の SCAR 科学総会などについて報告があった。

SCOSTEP-STPP 小委員会(塩川)からは、2025年9月に開催された SCOSTEP 総会、変動する太陽地球結合系の予測可能性(PRESTO)プログラムの後継の太陽地球系スケール間結合過程(COURSE)プログラム、来年度にギリシャで開催予定の第16回太陽地球物理学シンポジウム(STP-16)の準備状況などについて報告があった。

COSPAR 小委員会(中村)からは、COSPAR 理事をこれまで務められた藤本委員が2026年夏に任期満了となるため、日本人研究者を推薦するなどの動きが紹介された。

IUGS 分科会(掛川)からは、国内の動きに加え、IUGS 理事会との関係などが説明された。特に GEO-GTO との関係や、Geoethics Commission を廃止しようとする動きに対する国際動向と日本の小委員会の対応などが報告された。

ICA 小委員会(伊藤)からは、2025年8月にバンクーバーで開催された第32回国際地圏学会議(ICC2025、臨時総会)の状況、ICAの取り巻く国際情勢などが報告された。

IUGG 分科会(佐竹)からは、2027年に韓国で開催予定の IUGG 総会に向けた準備、IUGG 傘下の8つの科学協会(Association)の活動などが報告された。

IGU 分科会(鈴木)からは、ISC との連携、2026年にイスタンブールで開催される IGU 地域会議(IRC2026)の準備状況、国際組織との連携を支援する国内活動などが報告された。

SCOR(張)分科会からは、SCORの今年度の年会、新規ワーキンググループの申請と審査、小委員会の開催状況などに関して報告があった。

FE・WCRP 合同分科会(春日)から、WCRPのCore ProjectsやFuture EarthのGRN(Global Research Network)に関連した11の小委員会の活動や、2025年11月に開催した学術フォーラム「Future Earthと地球環境激変の10年」などについて報告があった。

WDS 小委員会(村山)からは、国際WDSの活動状況やScientific Committee活動への日本人委員選出等に関する報告があった。データサイエンスと国際情勢に関しても報告があった。

(3) 学術フォーラム(7月12日開催)のフォローアップについて

中村委員長より、資料3に基づき、学術フォーラムの講演内容などをまとめて東京地学協会の「地学雑誌」の特集号または小特集として企画すること、編集グループ及び出版までの日程(6月頃に出版)に関して提案があった。その後、審議し承認された。

(4) その他

中村委員長より、資料4-1に基づいて公開シンポジウム「地球温暖化は南極をどのように変えるか?-日豪共同研究の新展開-」の報告があった。三枝委員からは、現在は公開シ

ンポジウムの講演者旅費や受付担当者への謝金などを学術会議から支援できるようになっているので事務局と相談してほしいとの情報提供があった。

榎本委員より、資料4-2に基づいて IASC 小委員会へ委員2名（立川陽仁、増本翔太）を追加することについて説明があり、承認された。1月の幹事会で審議される予定である。

榎本委員から、北極関係の国際会議を日本で開催した際にロシアの科学者が来日して出席することができたとの情報提供があった。

村山委員から、UN Open Science Conference の開催に関して報告があった。特に SDGs の継続性やデータサイエンスとの関係に関する認識が高かったとの報告があった。

以上